中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

那須雪崩事故報告を高校生はどう受け止めてくれたのか

高雪研はこれまで全国7か所で実施。うち福島、長野、新潟の3県の講習会では、高校生も参加した。新潟の中村稔彦さんが「那須雪崩検証委員会の提言から」という私の話を聞いた顧問、生徒のみなさんの感想を送ってくださったので、紹介したい。

- *****
- ・雪崩事故に対する考え方がよくわかった。これから高校山岳部の進む道を正しく示してくれたと思う。「自立した登山活動」を生徒に身につけさせたい。
 - ・いつでもどこでも起こりうるということがよくわかりました。
 - ・自分がいる登山部の状況を言われているようで身にしみました。「自立した登山家」を目標に指導していきたいと考えています。
 - ・山岳部の顧問として、責任ある山行をするためのスキルアップが今後より必要であり、大西先生が調査した資格の必要性も今後求められると感じた。
 - ・雪崩の事故の原因がある程度わかった。しっかりと習ったことを注意していきたい。
 - ・大変参考になりました。
 - ・那須の事故が他人事ではないと身にしみました。
 - ・当時のデータ等を知ることで雪崩の恐さを知りました。その日の天気をしっかり確認することが大事だとわかりました。
 - ・事故の時は危険な状況がいくつか重なっていたことがわかった。
 - ・栃木県の事故の経験した人の話がすごい生々しくて、身近に感じた。事故の原因は1つではないんだとわかった。
 - ・栃木県の事故は自分が登山部であるということもあって興味があり、ニュースを見て調べていたが、報道されることも少なくなり、自分の興味も薄らいできたと思う。大事なのは経験を風化させないことというのを講演を通じて学ぶことができた。今回の事故でわかったことなどを、これからの参考にして登山をしていきたい。
 - ・あの事故を他人事だと思わずに、自分にも起こり得た事だと思って活動したい。
 - ・事故が起こった原因は様々にあると思うので、1つの視点だけからとらえないようにしたい。事故を忘れずに、教訓にしたいと思った。
 - ・冬の山は、とても美しい反面、とても危険なことがわかった。
 - ・今まで知らなかったことを聞き、冬の山は危険、そして山でなくてもどこでも危ないということがわかった。
 - ・とても他人事ではないと思えたのと、伝える側の思いがしっかり伝わってきて、とても良かったです。
 - ・事件や出来事の記憶を無くしてはならない、風化させてはならない、ということを知り、とても納得できました。他にもかなり身になる内容が聞けたので良かったです。
 - ・那須の事故について、新聞やニュースなどで聞いたり、見たりはしていたが、実際どのような事故の要因について深くは知らなかった。今回の研修を受けて、那須の雪崩について詳しく、より明確に知ることができたためになった。

- ・今回学んだことは、今後の山行に活かせることが多いと思うし、自分たちのメンバーと一度話し合っ、雪崩事故についてもしっかりと考えていきたいと思いました。
- ・雪崩事故は2度と起こってほしくない出来事だと思いました。また仮に事故にあった、目撃してしまったときも、今回学んだ内容を活かして対応していきたいと思いました。
- ・登山をする際に、目的を持って、そして1人1人の能力を知って、さらに独立した登山者になることを忘れずに、これからの登山をしていきたいです。
- ・改めて雪崩の危険性を知ることができた。そして私たちはその記憶を風化させずに、この先ずっと語り継がなければいけないことを知った。
- ・PDCAという単語を初めて聞きました。これからの登山に役立てていきたいです。
- ・最終的に自分で登山をする目的を決め、1人で登山ができるようになることが大事。
- ・どの様な状況で、またどの様な天候かなど詳しい情報をいくつも知ることができました。自分も人ごととして考えず、自分たちにも起きうるものとして受け止め、しっかりとこの事故を忘れずに、風化させず、今後の登山につなげていきたいです。
- ・登山について熱く語ってもらい、栃木県で起こった雪崩事故についての話などを聞き、改めて考えさせられる講義だったと思います。
- ・去年の事故について、たくさんのことがわかりとても良かった。やはり事故にあっ、生き残った方々の心のケアが大変だということを知り、とても悲しくなりました。もし自分がそのような体験をしたら、もう山になんか行けなくなると思った。
- ・去年起こってしまった大きな痛ましい事故について、メディアでは偏った情報しか流されていなかったんだと、メディアを信じていた自分が恥ずかしくなりました。様々な原因が重なり重なった事故で、自然の中だけで完結するのではなく、関わった人間の間の行動にも目を向けるという考えは、メディアだけを見てしまっている私たちには気づくことが難しいことでした。
- ・登山で大事なことは「目的を持つ」ということを知れてよかった。PDCAが大切。
- ・雪崩が起こってしまったことや、それに巻き込まれてしまったことには、しっかりと原因があり、その原因を防ぐにはどうすれば良かったのかということを知ることができました。
- ・雪崩にあっ、トラウマになってしまったりするのかと分かった。もしトラウマになったら山に登りたくなくなってしまうのではないだろうかと思った。
- ・テレビ等で知ったのは違う話を聞くことができて良かったです。
- ・非常にためになる話であった。事故のことは知っていたが、詳しく調べるところはしていなかったので、このような機会に恵まれてとても良かったと思った。
- ・那須の事件は人事ではないと思ったので、那須で起きたことを忘れずに活動していきたいです。
- ・高校での登山活動の意義と目的を明確にし、危機管理意識を持ち部員1人1人が自立した登山者を目指そうという気持ちを持つことができたと思います。
- ・栃木県で起こった雪崩事故は、今までテレビで見たことがある程度の知識だったので、詳しい話が聞ける機会があっ、とても良かった。
- ・山行へ行くときに「目的を持つ」ことが大切であることがよく分かった。
- ・PDCAサイクルをまわすことの重要性が理解できた。
- ・去年の事故について詳しく知れたし、雪崩の危険性についてしっかりと考えるきっかけ

けになって良かったと思う。

- ・とても大事な話なので忘れないようにしたいです。
- ・雪崩の危険性がよく分かった。自然の怖さを知ることができた。
- ・一本木のことなどよく分かりました。
- ・本部に1人しか人がいなかったことなどにより、雪崩への対応が遅れてしまった。→2度と同じことを繰り返さない。
- ・審査会が機能していなかったこと、本部に1人しかいなく、無線機を手放していたこと、パーティ編成が不十分なことが多かったこと、などが分かった。
- ・雪崩事故のことについて詳しいことが聞けて良かったです。残念な事故でしたが、ちゃんと原因があったんだと思いました。もうこんな残念な事故が起こらないように気を付けなければいけないと思いました。
- ・はたまたすごい大先生が聞けてよかった。私の知らない栃木の話を知って、とてもおもしろかった。いろんな事があった、あのような事が起こったのだと思う。
- ・雪崩はとても危険な事だと思った。
- ・雪崩事故には予兆があり、起こるべくして起こる事がわかった。事故には十分な注意がいる事がわかった。
- ・雪崩の恐ろしさと被害の防止に何が必要か分かりやすい講義だった。今回の経験を今後の山行に活かしていきたい。
- ・災害対策について熱く話されていて、他人事ではないのだと痛感した。リーダーとしての心構えや、これからの登山部の方針について考え直す良い機会となった。
- ・栃木の事件を徹底的に検証していてすごいと思いました。雪崩の恐さについて改めて知ることができました。
- ・あまり事故について詳しいことが分からなかったけど、話を聞いて詳しく分かった。
- ・実際の話も聞いてリアル感がありとてもためになった。風化させないように受け継いでいくことが大切だと改めて理解した。
- ・これ以上この様な事故を起こしたくないという思いが伝わってきたので、山についてもっと理解を深め、死亡事故等を起こさないようにしたい。
- ・雪崩の被害を受けた人の話を聞いて、雪崩は思っていたより速く、強いものだということがわかった。
- ・昨年の雪崩事故の際に、国とは別に多くの方が原因究明に動いて、200ページもの報告書を作っていたことに驚いた。
- ・雪崩事故の現場の様子、体験談など、ほんとに貴重な講話でした。雪崩事故防止への興味が少し大きくなってきました。

編集子のひとりごと

顧問の先生も生徒たちも真剣にこの事故について考えてくれたことがよくわかる。まもなく1年が経とうとしているこの事故について、僕は決して他人事とは考えられないし、ある意味起こるべくして起こった事故だとも感じている。この事故が私たちに教えてくれたことを忘れるべきではないということを、高校山岳部の生徒たちが僕の拙い話を聞く中で感じてくれたことは一筋の光明でもある。これからも機会あるたびに訴え続けていきたいと考えている。(大西 記)